

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600055		
法人名	社会福祉法人 博寿会		
事業所名	グループホーム とびしま		
所在地	愛知県海部郡飛島村大字服岡4丁目4-1		
自己評価作成日	平成30年12月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちグループホームとびしまは、利用者様一人一人の個性を大切に、笑顔と思いやりの心で接するケアを心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	mh1w.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JizvosvoCd=2395600055-008
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

村役場保健課職員と地域包括センターの保健師、民生委員、管理者4名を主として運営推進会議が開催されており、メンバー構成として地域ケア会議のような趣を呈していますが、津波避難タワーのスロープについては車いすでも通れるよう改善されたりと、事業所に有益となる協議がおこなわれています。常勤者3名、パートタイマー職10名の現在の配置で切り盛りが叶わないわけではありませんが、隣の介護老人保健施設から夜勤の応援が10名程あって、常勤者が日勤に概ね入れるというスケールメリットを享受できています。人間関係が良いことが自慢で、時折ボランティアで看護師が演歌歌手となる日もあるとの楽しみもあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年12月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初、皆で考えた理念があるので職員一同、再確認し共有して日々実践につなげていきたい。	『笑顔と思いやりの心』との理念を掲げ、理念通り職員は笑顔です。「村で1箇所のグループホームとして、利用者や利用者家族以外の地域の皆さんからも頼りされたい」との想いをもっており、実現に向け模索中です。	理念を実現する具体的な事業所目標をもつとなお、良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月1~2回の地域のボランティアの受け入れ、隔月で実施している「介護者の集い」で地域の人と交流している。	少し離れた母体施設の行事には皆で出かけて大勢で賑わったり、隣接施設とも交流があります。傾聴や食レクボランティアの受け入れもあり、また毎年飛鳥村の文化祭に利用者や職員の合同作品を出展しています。	町内会に加入して、地域密着型事業所の体制が整うことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月で実施している介護者の集いで地域の人たちに集ってもらい、専門職による認知症についての講話があったりする。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月1回実施しており、村の職員や民生委員にグループホームの運営について意見を頂き、運営に反映させている。	奇数月の第三木曜日を開催日と定め、村役場保健課職員と地域包括センターの保健師、民生委員、管理者4名で開催しています。メンバー構成として地域ケア会議のような内容が増えています。	地域や家族からの出席者が増えると、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事等、その都度聞くようにし、利用者の移動があればその都度報告している。	役場職員は認定調査のみならず情報提供にも立ち寄ってくださり、親身な関わりをもってくださいます。また現在事業所で運営する介護者の集い『ゆったりカフェ』の立ち上げは村と協働でスタートさせたものです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要最低限の身体拘束(離脱防止の扉の施錠等)にとどめている。また外部講師による研修で、身体拘束について学び、防止に努めている。	本年法改正のあった身体拘束適正化委員会の開催は、少し遅れてはいます。1月から急ぎ4回開催の予定です。玄関に立ち、家族の名前を呼びかけるのが習慣の利用者もいて常には施錠していますが、会議の都度開錠について検討を続けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師による研修で、虐待防止について学び、防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム会議で権利擁護に関する制度についても学ぶ機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様には契約・解約・制度の見直し等の際に同意書に記入頂き、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月で開催している運営推進会議に出席して頂き、ご意見を頂き反映させている。	面会は少なく、電話でのやりとりが多いものの、便りを隔月発行して情報共有しています。開設当初に行事開催を随時報せていたところ、「玄関に掲示しておいたら～」との提案を家族から受け、実施しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議で職員一人一人の意見を吸い上げ反映させている。	管理者は本体の全体会議と各部署会議に出席し、内容を毎月の所内会議に落とし込んでいます。管理者を含む男性3名が常勤者として配置され、パートタイマー職は其々が言いやすい人に進言できています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいように一人一人の意見を聞きながらできる限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り職員に研修を受けさせる等、取り組まれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の老人保健施設の職員と合同で研修を受けたり、忘年会をする等の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されて間もない時は、当グループホームに慣れて頂けるようこまめに声かけし、注意して見守っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や質問には誠実に対応し、こまめに連絡を取り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の希望するサービスが受けられる様に可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意見を尊重し、人生の先輩として接するようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と協力して本人様を支えていく様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店等に定期的に外出できるように支援している。	家族に利用料の支払いを毎月持ち込んでもらうことから最低でも月1回は会ってもらえています。また農家だった人には土いじりの継続を支援したり、以前通っていた喫茶店に珈琲チケットを使って通う人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席を定期的に変更し、グループが固定されず、皆様が平等により良い関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も良好な関係を本人様・ご家族様と築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向にはできる限り沿うようにしている。	散歩や入浴は1対1となる場面が多いため、ゆっくり話を聴く機会となっています。新しく発見したことは『ケース記録』『気づきノート』に記載され、職員間の頭の中ではアセスメントの更新が日々成されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、面会に来所して頂いた人達に本人様により良いサービスが出来るように本人様の生活歴など聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のペース、状態など様子観察し、何か変化があれば記録し、職員間で把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議でチーム全体で話し合い本人様の現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング、カンファレンスは毎月のグループホーム会議内で実施、その集約を計画作成担当者が介護計画書へつなげています。家族の要望は面会の折に聞き取り、主に管理者と計画作成担当者が担当しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に特記事項は随時記入するようにし、大きな変化は介護日誌に記入し、誰もが把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様をはじめご家族様の希望にも随時、できる限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のボランティア2名による手作りおやつ、隔月1回の傾聴ボランティアに2~3名来所して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り家族様の協力も得ながらかかりつけ医への送迎等を支援している。	薬を含めた医療情報の一元化を目的に、医師は入居と同時に訪問診療をおこなう事業所協力医に変更をお願いしています。また隣にある介護老人保健施設の看護師が週2時間の配置で健康管理に加わっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、担当看護師と連携を取り、随時情報を伝え支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の間は、こまめに医療機関を連絡を取り、利用者様の為に協働関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りも実施しており、ご家族様には契約の際に延命治療等の希望もお聞きしている。	契約時に「看取りをおこなう」ことは家族に伝え、延命治療なども確認のうえ合意形成しています。入居中に身体状態に変化があれば、都度家族と話し合いの場をもち、看取り相談へと移行するといった段取りとしていて、1名お見送りの実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救急救命研修を実施し、実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、利用者の避難方法を身につけるとともに地域との協力体制も築いている。	火災があるとしたら外付けの給湯器からと推定され、また津波想定地域なことから、年2回の法定訓練は火災と津波でおこなっています。災害には助け合う間柄として、併設事業所との合同実施も以前にはあります。	今後も合同開催とともに、消防署員の立ち合いによる具体的指導による連携の強化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様を尊重し、プライバシーを損ねない対応をしている。	自立の場合は自身でトイレの出入りをしていきますが、1日に1度は「大丈夫ですか」と声をかけたり、汚れがあれば提案をそっとして清潔を保つよう支援しています。呼称の取決めはなく、自然に「～さん」が浸透しています。	排泄に係る情報がトイレ内に掲示されていますので、何らかの工夫を以て目隠しができると良いと思います(又は、利用者の氏名や居室をイニシャルや番号化する)。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に好みの飲み物や服装等を選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り個々の希望に沿って支援しているが、職員の都合になっていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来る事をやって頂き、支援している。	隣接施設の厨房が調理した献立は、主菜に副菜2品とデザートが付く、バランスの良いものです。厚揚げも小さく刻まれ、汁物も白だしにトロミがつけてあって『食事を摂りやすく』に留意していることが伝わります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を把握し、摂取量が少ない方には補助食品を揃ってもらうよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じて排泄介助を行い、自立支援している。	夜間は睡眠優先です。1名のおむつ利用の利用者は定時巡回で対応し、基本本人が起きて行くというパターンで、起こしたりはしません。排泄チェック表をつけ、他人数の交替要員のため対応一覧を備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方には声かけにより多めにとって頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿うが、職員の都合で決めていることもある。	大きさや機能が異なる機械浴が2つあり、一般浴槽はありません。ですが、1つは一般浴槽に近い形で湯に浸かることができるとともに、一人ひとり湯を入れ替える必然性があるため、清潔性の高さにも寄与しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少し疲れ気味のご利用者には昼寝を勧める等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に内容と用量は表記しており、服薬支援と症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のペースで役割を持ってもらい、行事やレクリエーション等で楽しく過ごしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り支援している。	散歩はほとんどないものの、時々喫茶店などへ出かけています。三ツ又池公園の芝桜鑑賞は恒例となり、近くなら敬老センターの足湯等にも出かけ、過去には名古屋港水族館、ブルーボネットへと少し足を延ばすこともありましたが、本年度は遠出はありません。	天候のよい日には外気浴や散歩が慣行され、年間行事計画に外出行事も位置付けた取組みがあると、なお良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出時にご自分で支払いできる方にはお任せもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りを壁に飾ったり、トイレの場所が分かるように表示したり快適な空間を作っていると思う。	食堂兼リビングのスペースは20畳ほどあり、座っている利用者と利用者の間もゆったりとした空間があります。畳の小上がりやソファの居場所づくりも成され、利用者の習字作品や行事写真で話に花が咲く共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものを居室に持ち込んで頂く等の支援をしている。	大きな掃出し窓からの採光が豊かな居室には、洗面台とクローゼットが予め配されています。目が不自由な利用者の部屋にはぶつかったとき衝撃が少ないようにタオルなどでカバー補強されていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に名前を貼ったり、トイレの場所も一目で分かるように表示している。		